

第89期 報告書

[平成22年4月1日 ▶ 平成23年3月31日]

SASEBO

HEAVY INDUSTRIES CO.,LTD.



代表取締役会長
森島 英一

代表取締役社長
湯下 善文

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年3月に発生いたしました東日本大震災の被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

当社グループは、この3月末日をもって第89期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに第89期報告書をお届けし、その概要についてご報告申し上げます。

また、当社におきましては、本年6月をもって業務執行体制を一新し、代表取締役会長に森島英一が、代表取締役社長に湯下善文が就任いたしました。

当社グループを取り巻く経営環境は厳しい状況が続くものと思われませんが、「伝統と変革」を旗印に、引き続き当社の伝統を活かすとともに、時代の変化を先取りすべく自己変革を追求し、全社一丸となって厳しい時代を勝ち抜いて行く所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

高付加価値船の開発で 佐世保重工に新しい強みを

Q 就任にあたり、抱負をお聞かせください。

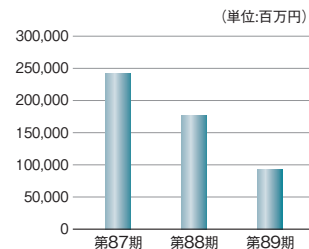
湯下 先輩諸氏がおられるなか、社長への就任に驚いております。ただ、お受けをした以上は責務を全うしなければなりません。先輩社長の足跡に学びつつ、皆様の期待にしっかりお応えしたいと考えています。

Q 当期の業績はいかがでしたか。

湯下 当期の売上高は672億円、経常利益は61億円、当期純利益は44億円となりました。売上高そのものは橋梁事業からの撤退により機械部門が減少したものの、船舶部門において新造船の建造隻数及び修理船工事が増加したことから前期比5.6%増となりました。損益面では前期に計上された受注工事損失引当金の戻入益が当期はなかったことなどから、経常

連結財務 ハイライト

受注残高



利益は前期比16.8%減となりました。当期純利益は、新造船建造契約解約にかかる解約料を特別利益に計上したことなどから前期比19.9%増となりました。

当期末の配当金は、1株当たり1円増配の5円といたしました。また、先の東日本大震災による影響については、機器の納期も通常どおりであり、操業に影響はございません。

Q 一進一退の経済状況が続いています。この1年、海運業界と造船業界を取り巻く経営環境はいかがでしたか。

湯下 リーマンショック以降、新造船の需要は低調に推移していました。ここに来て、船価に割安感が出てきたことからようやく船主の発注意欲が回復しつつあります。ただ、わが国の造船業は円高の影響などにより、海外造船所との厳しい受注競争が続いています。

東日本大震災により国際物流にも大きな影響が発生しており、コンテナ船や自動車船の需要に懸念が示されています。一方、ブラジル、ロシア、インド、中国に南アフリカを加えたBRICSの動きに注目が集まっています。国際物流の台風の目になる可能性があり、世界貿易が活発になれば船の需要も活発になります。

Q 再開された新造船の受注状況はいかがでしたか。

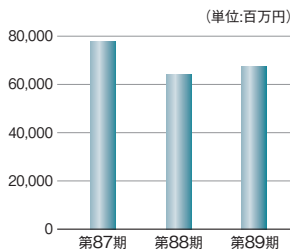
湯下 これまで採算割れが予想される新造船の受注については慎重な姿勢を取ってきましたが、今期より受注を再開し、当社が得意とする中型ばら積み船（7万5千重量トンバルクキャリアー）6隻を受注しました。ただ、中国との競争が激しさを見せる中で、船価の回復は難しい状況です。受注残は、この3月期末で14隻となっています。



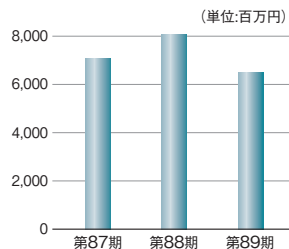
Q バラスト水処理装置で中国の広州ドックと提携することになりました。この意義と協力による経営上のメリットについてお聞かせください。

湯下 バラスト水管理条約は船舶による海洋汚染の拡散を防ぐため国際海事機関で採択され、発効必至の情勢にありま

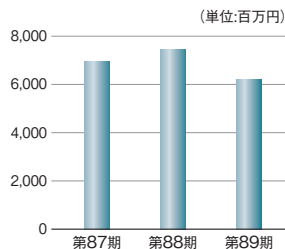
売上高



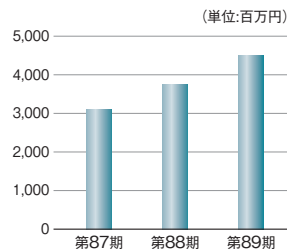
営業利益



経常利益



当期純利益



す。既存船6~7万隻にバラスト水処理装置の取付工事が義務付けられる見込みです。



修繕部門を持つ当社にとっては、絶好のビジネスチャンスになります。この分野で独自の技術的強みがあるだけに、これまで蓄積してきたエンジニアリング力を活かして、中国の広州ドックなどと連携を図ることで、多数のお客様のご要望に幅広くお応えしたいと考えています。

バラスト水:船舶が貨物を積まずに航海しようとすると、重心が高くなり不安定になります。このため、空船の場合、安定性を増すため出港地で港の海水などを船底の重し(バラスト)としてタンクに入れます。このバラスト水は、立ち寄る港で貨物を積載する際に船外へ排出されるため、外来種の水生生物が既存生態系に影響を与えるという指摘がなされています。

Q 省エネ船や高付加価値船の需要が期待されます。SSKとしては、この分野でどのような強みを発揮できますか。

湯下 昨年6月に「次世代船企画室」を設け、多数の顧客船主などを訪問しマーケティング活動を進めてきました。すでに船主のご要望やトレンドをまとめて新しい船型を開発中であります。

当社のこれまでの調査では、船主のご要望は船のスピードよりも燃費を重視する方向に動いています。燃費を良くするためには何を改善すればよいのか、搭載するエンジンや船のデザインなどを含めて検討を始めており、今年度中にはこの新しい船種で営業活動を開始したいと考えています。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

湯下 新造船については、目玉商品を開発する決意です。次世代船計画の推進・実現を早急に立ち上げてまいります。

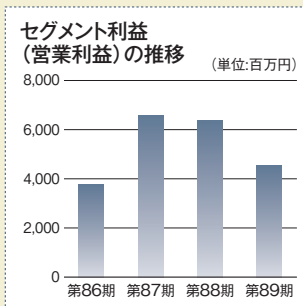
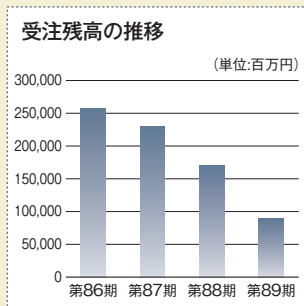
修繕は海上自衛隊や米軍の基地に隣接した造船所として、安定した業容が見込める部分であり、それにバラスト水処理装置の取付工事が出れば面白い展開となります。このために海外展開をもくろんでおり、海外ヤードと提携した修理工事も考えています。付加価値の高い客船や物理探査船のような特殊船も手がけていければ、当社の新たな強みになるでしょう。

機械部門はクランク軸を主力製品としています。新造船価格が低迷している状況の下、船舶用エンジンやクランク軸の価格も弱含みとなっていますが、当社はコストダウンに努めるとともに販路の拡大などを行うことで受注量を確保し、さらなる収益力強化を実現したいと考えています。

また、今回の震災の影響で原子力発電所の見直しが始まっており、再生可能エネルギー等の国内での開発にも拍車がかかるものと思われますので、京都大学、戸田建設、日本ヒューム等とともに推進している浮体式洋上風力発電施設用プラットフォームについても、社内体制を強化しつつ、他パートナーとの共同開発努力に拍車をかけていきます。

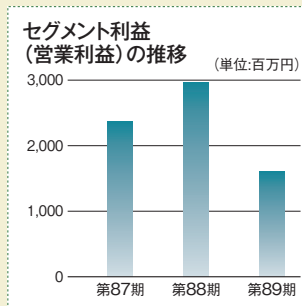
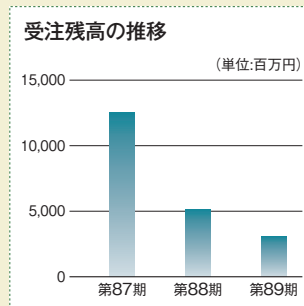
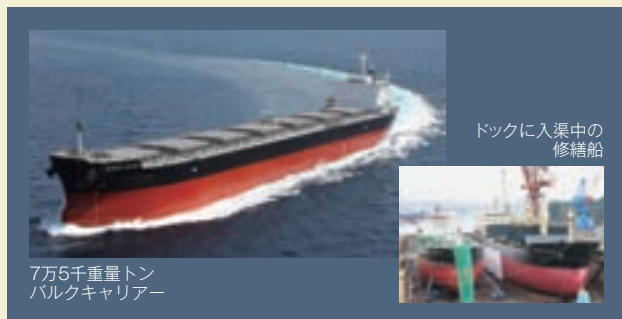
平成24年3月期については、売上高690億円、経常利益45億円、当期純利益25億円を目標としています。

佐世保重工業は、「伝統と変革」を旗印に掲げています。これまでの伝統に加え、グローバル社会に対応できる変革をいかに成し遂げるかが大切です。二つのバランスを取りながら、さらなる飛躍に向けた前進を続けなければなりません。株主の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」等を適用しております。

船舶部門の受注高は、新造船として7万5千重量トンバルクキャリアー6隻を受注したほか、これに海上自衛隊や米海軍艦船等の修理工事及び一般商船の修理工事等を加え29,161百万円となり、前期比352.2%増加しました。売上高は、新造船及び修理船工事で59,229百万円となり、前期比12.5%増加しました。当期に引渡した新造船は、11万5千重量トン原油タンカー1隻、7万5千重量トンバルクキャリアー7隻、18万重量トンバルクキャリアー2隻の計10隻です。新造船の受注残は、上記に加え前期までに受注していた新造船8隻の建造契約を解約した結果、14隻となりました。受注残高は、これに修理船を含め87,035百万円となり、前期末比48.5%減少しました。損益面では、前期に計上された受注工事損失引当金の戻入益が当期はなかったことなどから、セグメント利益は前期比7.4%減少の4,488百万円となりました。



第87期から事業の種類別セグメントを変更したため、第87期についても、変更後の区分に組み替えて記載しております。当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」等を適用しております。

機械部門の受注高は、機器工事として船舶用機器や一般産業機械等174件、金額にして5,268百万円となり、前期比10.7%減少しました。売上高は6,775百万円となり、前期比31.2%減少しました。受注残高は3,036百万円となり、前期末比40.8%減少しました。損益面では、売上高の減少などによりセグメント利益は前期比36.7%減少の1,592百万円となりました。



連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	当連結会計年度末 平成23年3月31日現在	前連結会計年度末 平成22年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	54,623	46,017
固定資産	30,390	34,822
有形固定資産	24,753	28,060
無形固定資産	201	239
投資その他の資産	5,434	6,522
資産合計	85,013	80,840
（負債の部）		
流動負債	39,517	40,319
固定負債	17,098	15,394
負債合計	56,616	55,713
（純資産の部）		
株主資本	28,612	24,761
資本金	8,414	8,414
資本剰余金	5,148	5,148
利益剰余金	16,026	12,175
自己株式	△ 977	△ 976
その他の包括利益累計額	△ 215	365
その他有価証券評価差額金	△ 215	365
純資産合計	28,396	25,126
負債及び純資産合計	85,013	80,840

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当連結会計年度 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで	前連結会計年度 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで
売上高	67,280	63,692
売上原価	58,221	52,926
売上総利益	9,058	10,765
販売費及び一般管理費	2,584	2,734
営業利益	6,473	8,031
営業外収益	120	129
営業外費用	432	760
経常利益	6,161	7,400
特別利益	2,085	143
特別損失	591	868
税金等調整前当期純利益	7,655	6,676
法人税等合計	3,176	2,942
少数株主損益調整前当期純利益	4,478	—
当期純利益	4,478	3,733

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当連結会計年度 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで	前連結会計年度 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,402	2,973
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,877	△ 5,812
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,226	8,857
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 6	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	5,745	6,017
現金及び現金同等物の期首残高	22,916	16,898
現金及び現金同等物の期末残高	28,662	22,916

株式数および株主数 (平成23年3月31日現在)

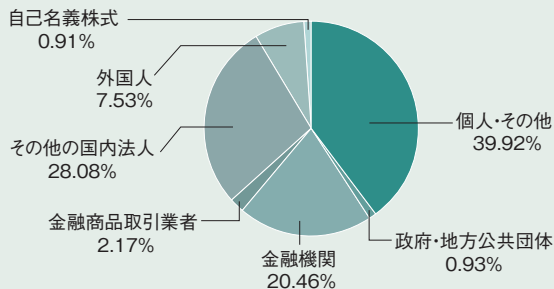
発行可能株式総数	353,675,000株
発行済株式総数	161,955,000株
単元株式数	1,000株
株主数	17,460名

大株主 (上位10名) (平成23年3月31日現在)

	持株数	持分比率
新日本製鐵株式会社	15,658千株	9.66%
株式会社メタルワン	12,110千株	7.47%
吉田海運株式会社	6,147千株	3.79%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	4,697千株	2.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,450千株	2.74%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,186千株	2.58%
シンコウ株式会社	4,150千株	2.56%
佐世保重工業佐栄会	2,839千株	1.75%
株式会社親和銀行	2,590千株	1.59%
株式会社福岡銀行	2,590千株	1.59%

株式分布状況 (平成23年3月31日現在)

所有者別株式分布状況



会社の概要 (平成23年3月31日現在)

商号	佐世保重工業株式会社
本社	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号 浜町センタービル17F TEL : 03-6861-7312 FAX : 03-6861-7352
佐世保造船所	〒857-8501 長崎県佐世保市立神町 TEL : 0956-25-9111
大阪支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-2-8 TEL : 06-7670-5502
資本金	84億1,400万円
設立	昭和21年10月1日
従業員数	1,584名 (連結)

役員 (平成23年6月23日現在)

代表取締役会長	森島英一
代表取締役社長	湯下善文
取締役専務執行役員	加藤陽一
取締役専務執行役員	宮崎尊徳
取締役専務執行役員	種村輝幸
取締役	樋渡健治
取締役	藤川博美
常勤監査役	内野秀幸
常勤監査役	永野健彦
常勤監査役	小林勉
監査役	西本恭彦

(注) 取締役樋渡健治、藤川博美の両氏は社外取締役です。
常勤監査役内野秀幸氏及び監査役西本恭彦氏は社外監査役です。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(フリーダイヤル)
定時株主総会	毎年6月	公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむをえない事情により電子公告が できない場合、日本経済新聞に掲載します。
剰余金配当基準日	毎年3月31日	公告掲載URL	(http://www.ssk-sasebo.co.jp/koukoku/)
中間配当基準日	毎年9月30日	ホームページアドレス	http://www.ssk-sasebo.co.jp
単元株式数	1,000株		
上場金融商品取引所	東京証券取引所第1部、 福岡証券取引所		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		



佐世保重工業株式会社

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号
浜町センタービル17F
TEL : 03-6861-7312 FAX : 03-6861-7352

